

町民と考えるオリンピックの町ワークショップからの提案（案）

以下の5つの提案は、私たちワークショップ参加者がこれまで議論してきたことや「改善提案シート」の内容を中心にまとめたものです。

提案

1. 多くの人がオリンピックとの親近感を持つことで、現役オリンピックが5人いることの強みをこれまで以上に町民全体で共有し、常にオリンピックを「応援する」雰囲気醸成しよう！

提案

2. 送迎や金銭面などでの保護者のサポートを中心として子どもたちのスポーツを支えよう！

提案

3. オリンピアンが5人いる「今」を活用してスポーツを「する」きっかけ、動機をつくろう！

提案

4. 体育館などの運動施設の使い方を見直して、子どもから大人までみんなが運動やスポーツしやすい環境をつくろう！

提案

5. 幕別町からオリンピックが多く出ている要因の分析を本格的に始めながら、「アスリートと食」を幕別町の中心に据えよう！

提案

1. 多くの人がオリンピックとの親近感を持つことで、現役オリンピックが5人いることの強みをこれまで以上に町民全体で共有し、常にオリンピックを「応援する」雰囲気醸成しよう！

オリンピックが5人いることの認知度はまだ高くないし、そのことが強みだと感じている人も多くない。今回、オリンピック選手の桑井亜乃さんの話を聞いて「身内意識」を持ちこれまで以上に応援しようという気持ちになった。これからは、自分たちが情報の発信者となり周りの人たちに情報を伝えていく。さらに、行政が積極的にオリンピックの情報を町民へ届け、幕別町応援大使でもあるオリンピックのイベントへの参加によって親近感を出すことで、町内全体でオリンピックを常に応援する雰囲気を作っていく。

「提案1」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち町民

- ① オリンピアンに興味を持つために、SNS や動画等をチェックしてみる。
- ② 自宅だけでなく、パブリックビューイングや店でスポーツ観戦してみる。
- ③ オリンピックの情報を積極的に見たり、聞いたり、触れたりする。
- ④ 寄付などに協力してみる。

地域

- ① 横断幕やポスターで周知する。
- ② 皆で集まりながらスポーツ観戦ができる環境を作る。
- ③ オリンピックに向けてのトレーニングや食生活、苦労話を発信する。
- ④ スポーツ選手とつながりのある人の紹介やイベントの協力、提案をする。
- ⑤ 地域の有資格者を使って、オリンピックの関心を掴む。(例：薬剤師等でドーピングの説明をするなど)

行政

- ① 広報や SNS を使ってオリンピックの活躍を町民へ届ける。
- ② 冠大会や試合を招致する。
- ③ 子どもたちがオリンピックと触れ合うチャンスをさらにつくる（学校訪問等）。
- ④ スポーツ選手に応援メッセージを送れるシステムを考える。
- ⑤ スポーツをすることだけでなく、見る・応援することの関心も増やす。

その他

- ① 歴代のオリンピックの記録が残るものがあれば、オリンピックの街と感じられる。

提案

2. 送迎や金銭面などでの保護者のサポートを中心として子どもたちのスポーツを支えよう！

子どもが運動部に入りたいと思っても、家庭事情で入れない場合があることがわかった。特に子どもの送迎が障害になるケースが多かった。今後は、地域や行政が協力しながら保護者のサポートをすることで将来を担う子どもたちが思う存分スポーツに取り組める環境を作る。また、指導者の影響も大きいことから、町内出身の元オリンピック選手を招くなど幕別町の強みを生かした指導者探しを行う。

「提案2」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち町民

- ① 時間確保、食事、送迎など子どもを最大限サポートする。
- ② 行政の制度を活用しつつも、行政だけに頼らない自治意識を持つ。

地域

- ① 我が子だけでなく、地域でスポーツする子どもたちを支え、応援する。
- ② 指導者や保護者が同意した上で、乗り合いによる送迎や地域での送迎を考える。
- ③ 使わなくなった用具を欲しい人にあげられる仕組みを考える。

行政

- ① 大会運営や用具購入等、補助金の新設もしくは増額を考える。
- ② 乗り合い送迎の実態を把握した上でルールの見直しを検討する。
- ③ 送迎のサポート体制づくりを考える。(バス、タクシー、ボランティア等)
- ④ 子どもファンド(子どもがプレゼンして活動費を募る)の創設など、金銭面を支える方法を考える。
- ⑤ 元オリンピック選手やスポーツ選手を指導員として雇用する。報酬を上げることも考える。

その他

- ① 道内でも十勝がスポーツ大国である要素として、指導者の存在・連携が大きい。途絶えることなくアスリートの能力を伸ばす横と縦の連携は十勝ならでは。
- ② 住民主体でクラウドファンディングを募集し、返礼は農作物や食材を提供し、その資金でオリンピックが幕別へ来るための旅費や町内スポーツの支援金とする。用途は行政ではなく住民によって決定する。

提案

3. オリンピアンが5人いる「今」を活用してスポーツを「する」きっかけ、動機をつくろう！

幕別町はパークゴルフの発祥の地でもあり、オリンピックを多く出している町でもあるが、日常的にスポーツや運動をしている人は全国と比べて決して多くはない。スポーツをするきっかけには「楽しい」や「カッコいい・憧れ」を感じられることが重要なので、オリンピックが町に来るタイミングで多くの町民との接触の機会を作ることで、その動機付けを行う。

「提案3」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち町民

- ① 町出身のオリンピックの情報を調べて、実際に観戦してみる。
- ② スポーツ体験会に参加し、いろいろなスポーツを試してみる。
- ③ ゲームやスマホに時間を費やさずに、本やスポーツ、イベントなどに目を向けてみる。
- ④ 町のスポーツチームを人に紹介して、応援してみる。

地域

- ① 地域に身近な存在である総合型スポーツクラブがイベントを企画する。

行政

- ① 町民が気軽に参加できるイベントやオリンピックが直接指導できるイベントを作る。
- ② 歩いた歩数などによる、ポイント制度を考える。
- ③ 広報、SNSなどで積極的にイベント情報等を発信する。
- ④ 体育館等のスポーツ施設の情報をしっかりと周知する。
- ⑤ 「〇年間通院なし」、「体力測定1級」等の基準を設けてオリンピックバッジ等を配布する。

その他

提案

4. 体育館などの運動施設の使い方を見直して、子どもから大人までみんなが運動やスポーツしやすい環境をつくろう！

体育施設の一般開放の時間が少ないため、幅広い町民が運動やスポーツをしたい時にできる環境になっていないと言えない。また、町民は施設の利用が無料であることでサークルなどの団体利用が多くなり、一般の人が利用しにくい状況を生み出している可能性もある。施設の有料化や一般開放時間の増加などを検討する。また、子どもは道具さえあれば公園でも遊べるので、公園にバスケットのゴールを設置するなどの工夫も考えてみる。

「提案4」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち町民

- ① 健康づくりへの意識を持ち、体を動かす時間を作ってみる。
- ② 行政の取組みに興味関心を持って、周りにも声をかけてみる。

地域

- ① 子どもから高齢者まで、気軽に参加できるスポーツイベントを地域オリジナルでやってみる。
- ② スポーツ参加のない町民へ働きかけてみる。
- ③ 使わなくなった道具を欲しい人にあげられる仕組みを考える。

行政

- ① 体育施設を団体利用が多い状況を見直し、少年団に入っていない子どもなど誰もが利用しやすい施設にする。
- ② 体育施設の利用料を見直す。(例：大人は有料、子どもは無料等)
- ③ 町内会、老人クラブへの健康サポート(保健師や運動指導者の派遣)を行う。
- ④ スポーツクラブ、少年団、部活動から複合型スポーツ団体へ変えていく。

その他

- ① 地域と行政が協力して、学校や自宅の近くの公園等で練習できるような環境を整備する。(例：バスケットゴールなど)

提案

5. 幕別町からオリンピックが多く出ている要因の分析を本格的に始めながら、「アスリートと食」を幕別町の中心に据えよう！

オリンピックが多く出ていることの明確な要因はまだわからないことなので、協定を結んでいる大学などと協力して本格的な要因分析を行う。並行して、幕別は農業が基幹産業なので「アスリートと食」にスポットを当てて、生産者や飲食店などと行政が協力して、「オリンピック監修の食」のレシピ開発や研究などを進め、町の強みとしていく。

「提案5」の実現に向けて、それぞれが行うこと

私たち町民 ① 日常の買い物の中から意識して幕別産の食材を買う、食べる。

地域 ① 幕別町の生産者（農家）等と触れ合えるチャンスを作る。

① 大学等の研究機関と連携し、栄養学をもとにスポーツをする人にとって補うべき栄養素や食べ物を発表・紹介する。

行政 ② オリンピック監修のもと、家庭でもできるアスリートレシピを作って配る。

③ スポーツ選手の食事メニューの紹介本を出してみる。

その他